

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第3区分
 【発行日】平成19年3月8日(2007.3.8)

【公開番号】特開2005-234712(P2005-234712A)
 【公開日】平成17年9月2日(2005.9.2)
 【年通号数】公開・登録公報2005-034
 【出願番号】特願2004-40479(P2004-40479)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 17/21 (2006.01)
G 0 6 F 3/12 (2006.01)
G 0 6 T 11/60 (2006.01)
H 0 4 N 1/387 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 17/21 5 3 6
 G 0 6 F 17/21 5 0 1 T
 G 0 6 F 3/12 C
 G 0 6 T 11/60 1 0 0 A
 H 0 4 N 1/387

【手続補正書】

【提出日】平成19年1月19日(2007.1.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

レイアウト処理の対象となる素材データと、前記素材データが配置されるレイアウト領域であるレイアウト領域データとを受信する受信手段と、

前記受信手段が受信した前記レイアウト領域データにより定まるレイアウト領域の形が矩形であるか非矩形であるかを判断する判断手段と、

前記判断手段の判断結果に従って、前記素材データに適用される優先度を用いたレイアウト処理方法を実行するか否かを決定する決定手段と、

前記決定手段によって決定されたレイアウト処理方法に基づいて前記素材データを前記レイアウト領域に配置する配置手段と、

を有することを特徴とする情報処理装置。

【請求項2】

前記素材データをマークアップ言語で記述したデータファイルにまとめるデータまとめ手段を更に有し、

前記配置手段は、前記データまとめ手段がまとめた前記データファイルを利用して前記素材データを配置することを特徴とする請求項1に記載の情報処理装置。

【請求項3】

前記素材データに画像データが含まれる場合に、前記データまとめ手段は、前記データファイル内に前記画像データの格納場所を特定する情報を記述することを特徴とする請求項2に記載の情報処理装置。

【請求項4】

前記マークアップ言語はXMLであることを特徴とする請求項2または3に記載の情報処理装置。

【請求項 5】

前記決定手段は、前記レイアウト領域の形が矩形であると判断された場合、前記素材データが当該矩形のレイアウト領域内に収まるような縮尺率を計算し、当該計算した縮尺率にて前記素材データのサイズを変更する第1レイアウト処理方法を実行することを決定し、一方、前記レイアウト領域の形が非矩形であると判定された場合、前記素材データに適用される優先順位に従って素材データを順次レイアウト領域内に配置する第2レイアウト処理方法を実行することを決定することを特徴とする請求項1乃至4のいずれか1項に記載の情報処理装置。

【請求項 6】

情報処理装置における情報処理方法であって、
レイアウト処理の対象となる素材データと、前記素材データが配置されるレイアウト領域であるレイアウト領域データとを受信する受信ステップと、
前記受信ステップにおいて受信した前記レイアウト領域データにより定まるレイアウト領域の形が矩形であるか非矩形であるかを判断する判断ステップと、
前記判断ステップの判断結果に従って、前記素材データに適用される優先度を用いたレイアウト処理方法を実行するか否かを決定する決定ステップと、
前記決定ステップによって決定されたレイアウト処理方法に基づいて前記素材データを前記レイアウト領域に配置する配置ステップと、
を有することを特徴とする情報処理方法。

【請求項 7】

前記素材データをマークアップ言語で記述したデータファイルにまとめるデータまとめステップを更に有し、
前記配置ステップでは、前記データまとめステップがまとめた前記データファイルを利用して前記素材データを配置することを特徴とする請求項6に記載の情報処理方法。

【請求項 8】

前記素材データに画像データが含まれる場合に、前記データまとめステップでは、前記データファイル内に前記画像データの格納場所を特定する情報を記述することを特徴とする請求項7に記載の情報処理方法。

【請求項 9】

前記マークアップ言語はXMLであることを特徴とする請求項7または8に記載の情報処理方法。

【請求項 10】

前記決定ステップでは、前記レイアウト領域の形が矩形であると判断された場合、前記素材データが当該矩形のレイアウト領域内に収まるような縮尺率を計算し、当該計算した縮尺率にて前記素材データのサイズを変更する第1レイアウト処理方法を実行することを決定し、一方、前記レイアウト領域の形が非矩形であると判定された場合、前記素材データに適用される優先順位に従って素材データを順次レイアウト領域内に配置する第2レイアウト処理方法を実行することを決定することを特徴とする請求項6乃至9のいずれか1項に記載の情報処理方法。

【請求項 11】

レイアウト処理の対象となる素材データと、前記素材データが配置されるレイアウト領域であるレイアウト領域データとを受信する受信ステップと、
前記受信ステップにおいて受信した前記レイアウト領域データにより定まるレイアウト領域の形が矩形であるか非矩形であるかを判断する判断ステップと、
前記判断ステップの判断結果に従って、前記素材データに適用される優先度を用いたレイアウト処理方法を実行するか否かを決定する決定ステップと、
前記決定ステップによって決定されたレイアウト処理方法に基づいて前記素材データを前記レイアウト領域に配置する配置ステップと、
をコンピュータに実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

この発明は、上述した課題を解決すべくなされたもので、本発明の情報処理装置は、レイアウト処理の対象となる素材データと、素材データが配置されるレイアウト領域であるレイアウト領域データとを受信する受信手段と、受信手段が受信したレイアウト領域データにより定まるレイアウト領域の形が矩形であるか非矩形であるかを判断する判断手段と、判断手段の判断結果に従って、素材データに適用される優先度を用いたレイアウト処理方法を実行するか否かを決定する決定手段と、決定手段によって決定されたレイアウト処理方法に基づいて素材データをレイアウト領域に配置する配置手段と、を有することを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

また、本発明は、情報処理装置における情報処理方法であって、レイアウト処理の対象となる素材データと、素材データが配置されるレイアウト領域であるレイアウト領域データを受信する受信ステップと、受信ステップにおいて受信したレイアウト領域データにより定まるレイアウト領域の形が矩形であるか非矩形であるかを判断する判断ステップと、判断ステップの判断結果に従って、素材データに適用される優先度を用いたレイアウト処理方法を実行するか否かを決定する決定ステップと、決定ステップによって決定されたレイアウト処理方法に基づいて素材データをレイアウト領域に配置する配置ステップと、を有することを特徴とする。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

また、本発明は、レイアウト処理の対象となる素材データと、素材データが配置されるレイアウト領域であるレイアウト領域データを受信する受信ステップと、受信ステップにおいて受信したレイアウト領域データにより定まるレイアウト領域の形が矩形であるか非矩形であるかを判断する判断ステップと、判断ステップの判断結果に従って、素材データに適用される優先度を用いたレイアウト処理方法を実行するか否かを決定する決定ステップと、決定ステップによって決定されたレイアウト処理方法に基づいて素材データをレイアウト領域に配置する配置ステップと、をコンピュータに実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体である。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】